

事務連絡  
令和2年6月8日

各都道府県〔防災担当主管部（局）長  
災害ボランティア担当主管部（局）長〕殿

内閣府政策統括官（防災担当）付  
参事官（普及啓発・連携担当）

**新型コロナウイルス感染が懸念される状況における  
災害ボランティアセンターの設置・運営について（情報提供）**

平素より、防災行政の推進にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染が懸念される状況における災害ボランティア活動については、「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況において効果的な災害ボランティア活動を行うための関係機関の連携強化について」（令和2年6月1日付け府政防第1231号）により、活動人員等に制約のある条件下で支援活動が効果的に行われるためには、行政、社会福祉協議会、NPO等の支援団体が一層の連携が必要であることから、あらためて連携体制の構築・強化、情報共有の推進等に取り組んでいただくようお願いしているところです。

このたび、社会福祉法人全国社会福祉協議会から『新型コロナウイルス感染が懸念される状況における災害ボランティアセンターの設置・運営について～全社協VCの考え方～』が示され、都道府県・指定都市の社会福祉協議会に周知されました。

この文書では、災害ボランティアセンターの設置・運営、ボランティアの募集・受け入れの基本的考え方等が示されているところ、貴都道府県及び管下の市区町村におかれては、上記の内容を十分にご承知いただくとともに、両部局が連携して上記通知の趣旨を踏まえて、災害ボランティアに係る関係主体の連携体制の構築・強化、情報共有の推進等に取り組んでいただきますようお願いいたします。

なお、以上については、貴都道府県より管下の市区町村に対しても周知をお願いします。市区町村への周知については、貴都道府県の防災担当部局から各市区町村の防災担当部局へ周知いただき、その後、市区町村内で災害ボランティア担当部局等に周知していただくなど、市区町村内の関係部局での情報共有・連携が図られるよう、お願いいたします。

内閣府政策統括官（防災担当）付  
参事官（普及啓発・連携担当）付  
諸留（もろとめ）・横田・江川  
Tel：03-3502-6984(直通)

全社地発第33号  
令和2年6月5日

都道府県・指定都市社会福祉協議会  
事務局 長 様

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
事務局長 松島紀由  
(公 印 省 略)

## 新型コロナウイルス感染が懸念される状況における災害VCの設置・運営について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、近年は大規模災害が発生した際は、市区町村社会福祉協議会が中心となり災害ボランティアセンターを設置し、ボランティアとともに被災者の支援を実施することが定着してきています。本年も6月に入り梅雨の到来とともに大雨などによる災害の発生が懸念される時期となり、災害発生時の備えが進められていることと存じます。

しかし、本年度は新型コロナウイルスの感染が全国的に広がり、4月7日から5月25日にかけて政府が緊急事態宣言を発する状況となるとともに、現在も人と人との接触を極力避ける方針が継続する状況となっています。

こうしたことをふまえ、本会では、別添のとおり、「新型コロナウイルス感染が懸念される状況における災害VCの設置運営についての考え方～全社協VCの考え方～」（以下、「考え方」）を整理し、公表することといたしました。

つきましては、市区町村社協に周知いただくとともに、本「考え方」を参考としていただき、貴都道府県・指定都市における災害VCの設置・運営の方針等を策定いただきますようお願いいたします。また、感染が懸念される状況下での支援活動の実施に備え、行政との調整や協力機関と合意形成を進めていただきとともに、マスクや消毒剤などの感染症対策物品の確保等にもお取り組みいただきますようお願いいたします。

なお、本会においては、災害発生に備えて厚労省、内閣府等の中央省庁及び全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援p）等の全国組織と連携・協働した支援活動に取り組むこととしております。同封の「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン」も併せて参照としていただきますようお願いいたします。

### 【お問い合わせ先】

全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター  
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル4階  
TEL 03-3581-4656 / FAX 03-3581-7858

2020年6月1日

**新型コロナウイルス感染が懸念される状況における  
災害ボランティアセンターの設置・運営等について  
～全社協VCの考え方～**

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
全国ボランティア・市民活動振興センター

《ポイント》

- 社会福祉協議会は、新型コロナウイルスの影響下における災害VCの設置について、被災者ニーズに基づき、専門家等の意見を加え、行政と協議し判断する。
- 災害VCの設置を迅速に判断し、感染防止策を施しながら適切に運営するため、社会福祉協議会は、発災前に専門家等の意見を踏まえ市区町村行政と協議し必要事項を決定しておく。
- 感染症の拡大懸念がある状況では、ボランティアの募集範囲は、顔の見える範囲から市区町村域を基本として、広くボランティアの参加を呼びかけることはしない。
- ボランティアの募集範囲の拡大は、被災地域の住民のニーズや意見、専門家等の意見をもとに、行政（都道府県含む）と協議し判断する。
- 災害ボランティア活動を実施するに際しては、感染拡大防止策を徹底する。

**1 災害ボランティアセンター（災害VC）設置・運営**

**【新型コロナウイルス下での災害VCの設置・運営の判断】**

- ボランティア活動は、本来、市民の自由な活動であり、自主的、自発的な活動である。このことは、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される状況下においても、十分に尊重されなければならない。
- しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止が課題となっている状況下においては、行政の判断により行動制限が行われることもあり、災害ボランティアセンターの設置・運営や、災害ボランティア活動に一定の制限がかけられることもやむをえない。
- 一定規模の災害が発生し、被災者への支援が必要な事態が生じた場合、社会福祉協議会は、被災者ニーズに基づき、感染症予防の専門家等の意見を加え、新型コロナウイルスの感染拡大につながらない災害VCの設置・運営が可能か、行政と協議し判断することが必要と考える。

- 新形コロナウイルスの影響下における災害 VC の設置を迅速に判断し、感染防止策を施しながら運営を適切に行うためには、発災前に専門家等の意見を踏まえ市区町村行政と協議し決定しておくことが求められる。その際、災害発生時における最新の感染状況や医療提供体制の状況といった新型コロナウイルス感染情報の提供、感染が発生した場合の行政、保健所、医療関係機関の支援体制等の確保が重要となる。

## 2 ボランティアの募集・受け入れの基本的考え方

- 大規模災害発生時、災害 VC は、被災地域内外から支援に訪れるボランティアを被災した人や地域につなぐことで被災した人の生活（回復）支援を行うものである。
- しかし、新型コロナウイルス感染が懸念されている状況においては、
  - ①被災地域にウイルスを持ち込む恐れ
  - ②被災地域からウイルスを持ち帰る恐れ
  - ③被災者やボランティア同士の接触により感染を広める恐れなどがある。
- このため緊急事態宣言が発せられている期間はもとより、感染拡大の懸念がある期間については、都道府県域をまたぐなど広域に大勢のボランティアに参加を呼びかけ受け入れる災害ボランティア活動は行わず、顔の見える近隣住民を中心に、中学校区、当該市区町村域、などの制限を設けて行う。
- このため災害 VC の運営者については、被災市町村内で社協を中心としつつ、地元の NPO、学生、ボランティア団体、企業・団体などの協力により確保できるように、災害発生前に体制を整える。
- ボランティアの募集範囲についても、被災地域の住民のニーズや意見、専門家等の意見をふまえ、行政と十分協議を行い決定する。被災地以外の社協においては、被災地の支援を申し出たボランティアや NPO 等にも上記の状況等について情報発信し、理解を求める。
- ボランティアの募集にあたっては、本人の健康状態の告知、活動中のマスクの着用や活動後に発熱等があった場合の災害 VC への連絡など、参加の条件を予め周知・徹底するとともに、当日不特定多数が災害 VC に訪れることがないように工夫することが重要である。
- 被災市区町村だけでの対応が困難であり、近隣市区町村域や県域を越えてボランティア募集を拡大する場合は、被災地域の住民のニーズや意見、専門家等の意見をふまえるとともに、市区町村に加え、都道府県・指定都市行政と都道府県・指定都市社協、市区町村が協議し判断する。

### 3 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した災害ボランティアセンターの運営

#### 【これまでの災害 VC の活動】

- 従来、災害 VC で行っている活動は、概ね下記の 11 項目である。
  - ① 住民等の被災状況の把握と共有
  - ② (ボランティアによる) 被災地支援活動の要否 (災害 VC の設置の要否) 判断と活動期間の見立て
  - ③ ボランティアと行政・NPO との連絡・活動の連携・協働の調整
  - ④ 被災住民へのボランティア活動による支援情報の発信
  - ⑤ 被災住民の支援ニーズの把握
  - ⑥ 被災者支援を行うボランティア受付
  - ⑦ ボランティアによる支援のコーディネート
  - ⑧ 行政やNPOが行っている支援活動への仲介
  - ⑨ ボランティア活動に使用する資機材等の調達・貸し付け
  - ⑩ 復旧・復興期の生活支援 (社協の事業として実施する活動と協働するボランティア活動のコーディネート)
  - ⑪ 活動に必要な資金等の調整
- 被災地域の住民から災害 VC に寄せられる支援ニーズには、ボランティアが対応するものだけでなく、行政や福祉関係者、福祉サービス事業者などが対応する内容のものも含まれる。社会福祉協議会としてそうしたニーズの仲介機能を果たすことは、新型コロナウイルス感染症下においても重要である。
- 上記の①・③・⑤・⑧・⑨は、ボランティアが直接関わらなくても、災害 VC の運営者、運営支援者により支援が実施できる内容であることから、被災市区町村、被災都道府県・指定都市社協を中心として災害 VC の名のもとで活動を実施することが可能である。

#### 【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した運営】

- 大規模災害時、限られた数のボランティアによる支援活動に限界があることをふまえ、「生活空間の確保」「保健衛生上必要な環境整備」「食事の提供」など実施する活動の優先順位と範囲を定めて行う。
- ボランティアによる災害ボランティア活動を行う場合は、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮する。
- 当日、不特定多数が災害 VC に訪れることがないように事前登録制とする。
- 活動地域において新型コロナウイルスの感染が発生した場合に備え、ボランティアやスタッフの連絡先を確実に把握する。
- 受付時、ボランティア活動保険への加入の確認をするなど、感染症発生時の

対応等を予め定めておく。

- 活動を実施するに際し、ボランティアの健康チェックだけでなく、支援先の住民の健康状態についても確認する。
- 運営においては、災害VCのスタッフのマスクの着用、手指の消毒、毎日の検温、体調の報告の徹底をはかる。
- 災害VCでの人と人の接触時間を極力短くするため、事前研修やオリエンテーションは、事前の説明用紙の配付等により行う。説明動画を Web に掲載して行う方法も検討する。
- ボランティア受付やボランティア保険への加入についても人と人との接触を最小限とするため、全社協が昨年開発した QR コードによる受付システムや Web による保険加入システムを利用する。
- ICT を利用したニーズの受付、被災情報把握、ヒアリングなど被災者との接触を避ける運営を工夫するとともに、スタッフのミーティングについてもオンライン会議を行うなど接触を最小限とする工夫を行う。

(情報提供)

### 【ボランティア活動保険について】

新型コロナウイルスに関するボランティア活動保険による補償についての問い合わせが増えていることから、情報を提供する。

- ボランティア活動保険は、賠償責任保険をベースに開発された保険であり、特約事項として食中毒や指定感染症の一部を対象範囲として列挙し、補償している。

#### 特定感染症（感染症予防法による分類）

一類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡（天然痘）、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
二類感染症	急性灰白髄炎（ポリオ）、結核、ジフテリア、SARS、鳥インフルエンザ（H5N1）、MERS
三類感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O-157等）、腸チフス、パラチフス

<令和元年10月1日現在>

- 現状では、ボランティア活動中のボランティア自身が上記の特定感染症に罹患した場合に、
  - ① 葬祭費用（死亡の場合、300万円を限度とした実額）
  - ② 後遺障害保険金
  - ③ 入院保険金（6500円/日）
  - ④ 通院保険金（4000円/日）
- これまで新型コロナウイルスによる肺炎は第1種～第3種特定感染症に該当していなかったため、ボランティア活動保険では補償対象外となっていたが、5月1日に保険の改定が認可された。これにより、ボランティア活動中に新型コロナウイルスに罹患して治療を受けた場合は、補償の対象とすることとなった。（2020年2月1日に遡り適用する。）
- なお、補償にあたっては、ボランティア活動中に感染したことが合理的に確認される必要があるため、必ず補償されるということにはならないことに注意する必要がある。